

そら ち ち ほう つきがたちょう ささ さんぎょう のうぎょう なか しゅりょく はな せいさん ほっかいどう なか ゆう
空知地方の月形町を支える産業は農業です。その中でも主力となるのがコメと花の生産です。北海道の中でも有
すう はなさん ち つきがた き しゃ はなのう か ほうほう し ごと
数の花産地の月形で、こども記者まなっくの2人がカーネーションなどをさいばいする花農家にさいばい方法や仕事の
たいへん しゅぎ
大変さなどを取材しました。

カーネーション 18時間の光必要

「このくらいさいていると切り花として収穫できる」と説明する花農家の山田肇さん（右）。話を聞く西川侑呂さん（中央）と、タブレットで写真におさめる石塚永愛さん



まなづくは空知管内奈井江町・奈井江小5年の石塚永愛さんと岩見沢市・北村小4年の西川侑呂さんの2人です。

「月形の花」の歴史は1971年に7戸の生産者によつて始まりました。多いときは110戸にまで増えましたが、2024年は46戸の生産者が58種の土地で、78品目358品種の花をさいばいしています。2人は、カーネーションを生産する花農家・山田肇さん(51)を訪ねました。

筆者(51)はまだ山田さんはば5・5トル、長さ65メートルのビニールハウス10とつを管理し、12品種の力でネーションを中心毎年約6万~7万本を育てています。ハウスの中は、赤、ピンク、オレンジ、白などのカーネーションが並びます。「これまで10品種を育てています」と山田さん。花をさかせていくるものもあれば、つぼみの状

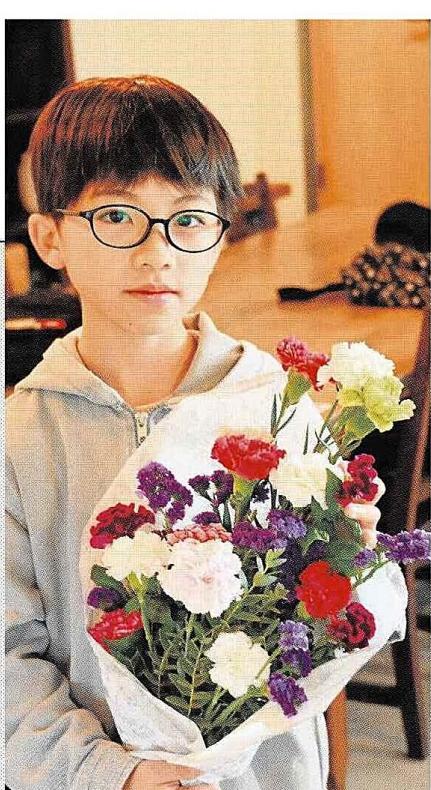
こども記者 まなづく見 ぶん 録

生産者 夜は照明／二酸化炭素与え成長補う

る午前3～6時、午後6～9時は照明をつけて明るくします。「花農家は一本一本、花の状態を確認して収穫するので、午前4時ごろには仕事を始めているんですよ」と山田さんに教わりました。まくなつの2人は朝早くから仕事をしていることにおどろいた様子でした。

別のハウスも見せてもらいました。ハウスには、背丈ほどの四角い箱のような機械があります。石塚さんが「この機械はなんですか」と質問。「植物の成長に必要な一酸化炭素を作る機械です。冬にハウスを閉め切つていると、どんどん二酸化炭素が減つてしまふので、この機械で補つてあげるんです」と、「光合成」の仕組みを分かりやすく説明してくれました。

「力ーネーションは暖かさを好みため、寒い冬はボイラードでハウスの中を暖めるそうです。西川さんが「何度にするんですか」と質問すると、山田さんは「15度以上が理想だけど、特に2月ごろは外気温も低いので13~15度で育てています」と説明してくれ



はな たば づく きょうりょくたい いん おそ 花束作り 協力隊員に教わった

約1時間かけて花束は完成。西川さんはかかるくらいの大きな花束を一つ作り、「どんな風に並べたらいいのか難しかつたけど、うまく作れた。部屋にかぎりたい」と笑顔です。石塚さんは小さな花束を二つ作り「カーネーションでミックキーマウスの形を作ろうとがんばった」とこだわった点を教えてくれました。

石原さんは「くきの半分
より下側の葉っぱは取つて
枝分かれしているお
花は使いやすいように何本
かに分けてみましょう」な
どと手順を説明してくれ
ました。

まなつくるの2人は月形町産の花を使つた花束作りにも挑戦しました。月形町の花を町外へ広げろ活動をしている地域おこし協力隊の石原絢子さん（41）に作り方を教わりながら、山田さんからいただいた力一ネーションやユーリーのほか、町内で生産されたケイトウやスター、チヌなどを組み合わせて作りました。